

令和4年10月1日

学校法人 西鉄学園
西鉄自動車整備専門学校
校長 椎葉 小夜子

「自己評価及び学校関係者評価結果（令和3年度版）」 報告

学校法人西鉄学園 西鉄自動車整備専門学校では、令和元年度の自己点検・自己評価を実施し、本校規程に基づき学校関係者評価委員会を開催いたしましたので、ここに学校教育法施行規則第189条に則して「自己評価及び学校関係者評価結果（令和3年度版）」を公表いたします。

学校関係者評価委員会からのご意見を真摯に受け止め、教育力の更なる向上、より良い学校運営を目指し、教職員一同努力して参ります。

今後とも、一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

■学校関係者評価委員

	氏名		所属等
企業・団体	自動車業界	井上 皓介	トヨタカローラ福岡株式会社 総務部 人事グループ グループ長
		石丸 淳一	トヨタカローラ福岡株式会社 サービス部 技術グループ グループ長
	業界団体	寺崎 浩二	一般社団法人福岡県自動車整備振興会 指導部 部長
	教育有識者	井上 武之	経歴：高等学校校長、篠栗町教育委員長
	卒業生	松尾 哲也	福岡日産自動車株式会社 サービス推進部 係長
事務局 (学内)		椎葉 小夜子	理事・校長
		目原 宏輝	教頭
		浅井 朋晃	総務・学生課 係長
		森田 悠暉	教務・就職課

西鉄自動車整備専門学校 自己評価及び学校関係者評価結果(令和3年度版)

令和4年10月1日公開

評価項目	自己評価	学校関係者評価
<p>(1) 教育活動</p> <p>-----</p> <p>○理念等に沿った教育課程の編成、実施方針</p> <p>○教育目的・目標に沿った教育課程</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国土交通省の規定、業界ニーズのもと、教育課程を検討し、それに沿って教育目標を設定している。 ・ 教育課程編成において、業界のニーズに沿ったものか確認が必要。 ・ 学生のニーズに応えながら、学生が授業に積極的に参加するための工夫と目標を達成するための学習指導と支援が必要。 ・ 学生の理解が進んでいない分野を早期に発見・確認するために教育課程を細分化し、それに応じた習熟度を図る単元テストの実施など、学習成果が上がる工夫を行っている。 ・ 人間性の成長の必要性を自覚させるため、業界とより連携を深め教育課程を編成することが課題。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ お客様対応の課題が大きく、若いエンジニアほどお客様に失礼な対応を取り、トラブルになることがある。近年頭で考えていることを言語化することが苦手な若者が増えている印象があり、トラブルにつながっている要因の一つと考えられる。現代ではスマートフォン等の文字でコミュニケーションをとる機会が多いためか、言いたいことがあっても言葉に出さず、自分の考えを相手に伝えられていないと感じることが増えた。新入社員研修において、社員が言葉に詰まる場面が多々見られた。以上のことを踏まえ、授業の中で学生が発言したり、思ったことを伝えたりするアウトプットの機会を取り入れてほしい。 ・ 日頃から敬語を使って物事の説明をする等、会話の訓練が必要だと思う。 ・ 視野を広げるために、広範囲にわたって勉強することも教えておいてほしい。社会に出てから困ることがないような指導が必要。 ・ 試験については、教員間で学生の状況を今まで以上に共有しておいてほしい。学習の進捗状況を確認しあうことは、習熟度を高めるうえで大切である。 ・ 学生の出席管理と指導は重要。欠席しても後で挽回できると思わせないようにしてほしい。また、日頃からそのような雰囲気作りも重要。
<p>(2) 学習成果</p> <p>-----</p> <p>○就職率向上への取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就職(働くこと)に対する意識を入学時より持たせ、企業人となるための学生自身による主体的な準備と支援体制を構築することが課題。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨今は理不尽を経験していない若者が増えており、社会の理不尽に耐えられず早期に退職する者が増加傾向にある。不自由について考え理解させ体験させることも重要。 ・ 他校と比較して教員と学生の距離感が近いと感じる。距離間が近いことが学生指導の妨げにならぬよう、教員は様々な面において模範となしてほしい。関係性はフランクに、注意すべき点はきちんと注意するというメリハリが必要。 ・ 「ならぬことはならぬ」ということを徹底させていくことが大事である。 ・ 基本的マナーの定着には、マナーについての唱和による意識付けも一定の効果があると思う。
<p>(3) 学生支援</p> <p>-----</p> <p>○退学率の低減</p> <p>○課外活動に対する支援体制</p> <p>○卒業生への支援体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入学者数、退学者数、休学者数及び、その理由・退学に至る経緯といった基本情報を整備している。 ・ メンタル・ヘルスの面において問題を抱える学生が増えており、その学生への対応が課題。 ・ 再就職、キャリアアップなど卒業生の相談には適切に応じているものの、発生ベースに限られていることが課題。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現代は「やさしさの時代」であり、精神面が弱い生徒たちに配慮した支援の在り方が問われている。人権に配慮し、生徒の成長を促す指導や支援が重要である。 ・ 様々な特性を持った生徒の支援を行うためには教職員の高いスキルが今後ますます必要となる。教職員のスキル向上に努めてほしい。 ・ 離職について、当事者が他者に相談することが見られなくなっており、退職意思が固まった状態で人事に意思表示をすることが多い。もっと早い段階で人事に相談があれば対処することもできるので、卒業生の不穏な動きや気持ち等を聞いたときは教えてほしい。

<p>(4)教育環境</p> <p>-----</p> <p>○教育上の必要性に十分対応した施設・設備 教育用具等の整備</p> <p>○インターンシップ実施体制の整備</p> <p>○学内における安全管理体制の整備と適切な 運用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習の充実を図るための効果的なスペースの運用が課題 ・ インターンシップにおいては、企業担当者との連携を密にし、学生に配慮した多彩なプログラムを用意することや、企業のニーズとマッチした実施期間の設定が必要。 ・ 安全意識を常に持続させて実習に臨ませることや、振り返りでの反省点をいかに行動に活かしていくかが課題。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 限られたスペースの運用には限界があるので、各種カットモデル等を利用しながら教育内容を工夫する方が効果的と思う。 ・ 自動車整備振興会でもインターンシップ制度を行っており、日程等の調整も柔軟に行えるのでぜひ活用してほしい。人材不足が深刻で離職が少ない業界であるので、離職して他業種に進むくらいなら、専業工場でのインターンシップを経験することも第二の就職先となる可能性がある。 ・ 安全管理体制に関しては、基本作業と安全作業を強化し常に安全を第一に考え実習を行ってほしい。
<p>(5)財務</p> <p>-----</p> <p>○学校運営の中長期的な財務基盤</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定員充足を必達目標に掲げ、経営基盤の安定に向けた取り組みを推進している。 ・ 留学生確保については、日本語能力の向上、国家資格の取得や国内就職実績を増やし、他校との差別化を図って募集活動に繋げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 留学生について、国民性によってコミュニケーション能力に差があると思うので、特に実習時には日本人と留学生でペアを組ませる等の配慮を行ってほしい。 ・ 学校として大切なことは、目先の利益や短期的な成果を求めめるのではなく、長期的な視野を持ってきちんとした学校観や学校像を構築すること。他校にないものや他校と違うもの、他校より強いものを持たなければならない。それによって学校の差別化が図れ、世間の評価も高まる。教員全員で長いスパンで考え、一生懸命頑張ってもらいたい。
<p>(9)法令等の遵守</p> <p>-----</p> <p>○法令等を遵守し、適正な学校運営を行っているか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎朝、交通ルールの遵守、マナー徹底の指導や巡回などを行い、違反者に対する再教育を継続して実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ コンプライアンス意識の醸成は重要。業界内で起きたコンプライアンス違反の事例を基に、社会や会社への影響について学生に考えさせて規範意識を高めてほしい。
<p>(10)社会貢献・地域貢献</p> <p>-----</p> <p>○学校の教育資源を活用した社会貢献</p> <p>○学生のボランティア活動の奨励と具体的な活動支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高等学校からの授業要請に積極的に応じ、職業教育の支援を行っているが、早期の段階から自動車に興味・関心を持ってもらう取組みが不十分。小学生や中学生を対象とした取組みが課題。 ・ 学生のボランティア意識の醸成が課題。ボランティアの意義を浸透させ、活動の促進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会社にも仕事体験の依頼があり、キッズエンジニア体験を開催している。親も子供も一緒になって体験できるイベントは喜ばれると思う。 ・ 自動車整備振興会では貸出教材等を揃えているので、ぜひ利用してほしい。 ・ 企業でも社会貢献活動を推進している。例として、月1回の定期地域清掃活動やペットボトル飲料のキャップを集めて栄養補助食品の寄付をするなどの取組がある。ちょっとした身近なことからボランティア意識の醸成を図ると良い。